

公立大学法人福山市立大学

令和3年度 業務実績に関する評価結果

令和4年8月

福山市公立大学法人評価委員会

目 次

■全体評価

1 第1期中期目標の達成に向けた進捗状況に係る所見	1
2 判断理由等	1
3 指摘事項	1

■項目別評価

I 教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標	
（1）教育内容の充実	3
（2）教育方法等の改善	4
2 研究に関する目標	6
3 学生の確保及び支援に関する目標	
（1）学生の確保	7
（2）学生への支援	8
4 社会貢献に関する目標	10
5 国際交流に関する目標	11

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 大学ガバナンスの構築に関する目標	12
2 業務運営の改善と効率化に関する目標	
（1）機動的・効率的な運営体制の構築	13
（2）業務運営の高度化	14
（3）「地域に開かれた大学」としての業務運営	16

III 自己点検及び評価並びに情報の提供に関する目標

1 自己点検及び評価に関する目標	17
2 情報の提供に関する目標	18

IV 財務内容の改善に関する目標

1 自己収入の確保に関する目標	19
2 経費の効率的な執行に関する目標	20

V その他業務運営に関する重要目標

1 施設・設備の整備及び活用に関する目標	20
2 安心・安全な教育研究環境の確保に関する目標	21

■全体評価

1 第1期中期目標の達成に向けた進捗状況に係る所見

公立大学法人福山市立大学の令和3年度の業務実績から、「中期目標の達成に向け、順調な状況にある」と評価する。

2 判断理由等

まずは、法人化初年度において、新たな制度への適応や業務手法等の変化に対応し、コロナ禍においても概ね順調に法人運営を遂行されたことが、何より評価に値するものとする。

令和3年度年度計画に位置付けられている取組については、計画どおりの進捗であるとする。特に、

- ・心とからだのサポートセンター、心の相談室等について、学生の支援体制を強化したこと。
- ・大学改革や将来像など、法人の総体的な議論を行うためのワーキンググループを立上げ、今後の法人運営の改善・効率化につなげていること。

といった取組については、年度計画を上回って実施されている。

また、コロナ禍の影響により従来手法では想定どおりに取組が進まない状況があった一方で、

- ・オンライン授業のあり方の基本的な考え方を整理したガイドラインの作成
- ・国際交流協定校とのオンライン交流セミナーの実施

などにも取り組まれており、引き続き、困難な状況下にあっても、中期目標の達成に向けて尽力されたい。

なお、2021年度（令和3年度）は検討段階の取組が年度計画に位置付けられているものが多かった。成果を求めて取組を行うためにも、振り返りが行えるよう、目指す姿や具体的な目標・指標を掲げて今後の年度計画を策定し、推進していくことが必要とする。加えて、年度計画に取組が設定されていない項目についても、今後の年度計画に位置付けるなど、6年間を見据えた取組を推進されたい。

3 指摘事項

法人の業務運営の改善や質的向上に資する観点から、次の点について指摘する。

- ・科研費の申請・獲得に向けて、一層取り組まれたい。
- ・社会人ニーズ調査の本格的実施などにより、大学院進学の推進に一層取り組まれたい。

【参考】項目別評価結果の一覧表

項目名	評価	S	A	B	C	D
I 教育研究等の質の向上に関する目標						
1 教育に関する目標						
(1) 教育内容の充実			○			
(2) 教育方法等の改善			○			
2 研究に関する目標				○		
3 学生の確保及び支援に関する目標						
(1) 学生の確保			○			
(2) 学生への支援			○			
4 社会貢献に関する目標			○			
5 国際交流に関する目標			○			
II 業務運営の改善及び効率化に関する目標						
1 大学ガバナンスの構築に関する目標			○			
2 業務運営の改善と効率化に関する目標						
(1) 機動的・効率的な運営体制の構築			○			
(2) 業務運営の高度化			○			
(3) 「地域に開かれた大学」としての業務運営			○			
III 自己点検及び評価並びに情報の提供に関する目標						
1 自己点検及び評価に関する目標			○			
2 情報の提供に関する目標			○			
IV 財務内容の改善に関する目標						
1 自己収入の確保に関する目標			○			
2 経費の効率的な執行に関する目標		—	—	—	—	—
V その他業務運営に関する重要目標						
1 施設・設備の整備及び活用に関する目標			○			
2 安心・安全な教育研究環境の確保に関する目標			○			

【評価基準】※ () 内は判断の目安

S：進捗が特筆すべき状況にある。（評価委員会が特に認める場合）

A：計画が順調に進んでいる。（法人による自己点検・評価が全てⅢ又はⅣ）

B：概ね計画どおり進んでいる。（法人による自己点検・評価においてⅢ又はⅣが9割以上）

C：進捗がやや遅れている。（法人による自己点検・評価においてⅢ又はⅣが9割未満）

D：進捗が著しく遅れており、大幅な改善が必要である。（評価委員会が特に認める場合）

■項目別評価

I 教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育内容の充実

ア 評価結果

A	計画が順調に進んでいる。
---	--------------

【参考】法人による自己評価結果

評価	IV	III	II	I
項目数		8		

IV：年度計画を上回って実施している。 III：年度計画を順調に実施している。

II：年度計画を十分には実施していない。 I：年度計画を大幅に下回っている又は実施していない。

イ 法人の主な取組状況

- ・共通教育科目について、大学改革・将来像ワーキンググループにおいて、カリキュラムポリシーの改正案のたたき台を作成し、共通教育委員会をベースとしたワーキングを立ち上げ、カリキュラムポリシーやカリキュラムの改正案の検討を開始した。さらに、同委員会において、共通教育科目におけるデータサイエンス科目の整備の検討に着手した。【3】
- ・教育学部において、大学改革・将来像ワーキンググループが作成した3ポリシー（アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー）の改正案のたたき台をもとに、学部での議論を開始した。また、学部専門教育科目の授業担当教員に対して、担当科目とディプロマポリシーとの対応についてアンケート調査を実施した。【1】
- ・ICT活用指導力に関する科目として、2023年度（令和5年度）第2学期から「情報通信技術の活用に関する理論及び指導法」の開講を決定した。【4】
- ・都市経営学部について、3ポリシーの改正案のたたき台を作成し、学部での議論に向け、カリキュラムマップの試案の作成や、検討体制やカリキュラム体系の見直しの方向性のたたき台の検討を行った。【2】
- ・大学改革・将来像ワーキンググループにおいて、数理・データサイエンス系の科目について位置付けを整理した。【5】

- ・教育学研究科について、大学院生4人が学会に延べ10件、研究会に延べ23件参加した。また、同研究科において、大学院生の学会等への参加を促進・支援する方策を検討していくことを確認した。【6】
- ・教育学研究科について、同研究科運営委員会において、大学院生の研究支援や教員が行っている研究への大学院生の参画等を検討していくことを確認した。また、共同研究の入口となる環境整備のため、研究紀要について、大学院生も第一執筆者になることができるよう、要領を改正した。【7】
- ・教育学研究科において、学習ニーズを把握するため、大学院1年生を対象としたヒアリングを実施した。【8】
- ・都市経営学研究科について、同研究科運営委員会において、学会参加等を促進・支援する方策を検討していくことを確認した。【6】
- ・都市経営学研究科について、同研究科運営委員会において、継続的・学際的な研究プロジェクトの立ち上げ等を検討することを確認した。【7】
- ・都市経営学研究科において、学習ニーズを把握するため、社会人学生へのヒアリングを実施した。【8】

ウ 特筆すべき事項

- ・3ポリシーやカリキュラムの改正について、共通教育科目・学部専門教育科目のいずれも、2025年度（令和7年度）からの適用を目指すこととされており、導入時期を見据えて取り組まれていることは評価できる。

エ 指摘事項

- ・特になし。

I 教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(2) 教育方法等の改善

ア 評価結果

A	計画が順調に進んでいる。
---	--------------

【参考】法人による自己評価結果

評価	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
項目数		4		

Ⅳ：年度計画を上回って実施している。 Ⅲ：年度計画を順調に実施している。

Ⅱ：年度計画を十分には実施していない。 Ⅰ：年度計画を大幅に下回っている又は実施していない。

イ 法人の主な取組状況

- ・学生による授業評価アンケート，教員相互の授業参観，FD研修会，FD講演会を実施した。また，前年度に実施した学生による授業評価アンケートの分析結果等を掲載したFD活動報告書を作成し，教職員や学生に共有した。【9】
- ・附属図書館の機能充実について，自宅学習支援サービスの実施により，コロナ禍で附属図書館の入構制限を行う中でも，継続してサービスを提供した。学外アクセスの環境整備については，2022年（令和4年）10月からの拡充を決定した。また，安心・安全な施設環境を確保するためサーキュレーターを設置など感染症対策を強化するとともに，電子書籍の導入，学生・教職員のニーズを踏まえた蔵書構築，館内の配架の見直しに取り組んだ。【10】
- ・オンライン授業のあり方の基本的考え方を整理した「授業の実施方法に関するガイドライン」を10月に作成し，教員に周知した。また，教員相互の授業参観を行い，自己改善を促した。【11】
- ・学生ボランティア団体（4団体）の代表者からヒアリングした結果，コロナ禍による活動自粛の影響で，活動継続自体が課題になっていることを確認した。支援体制の検討に当たり，学生委員会で学外への情報発信の強化を検討していくことを確認した。【13】

ウ 特筆すべき事項

- ・自主的な学習推進に向けた，学外アクセス環境の整備に取り組んだことは評価できる。

エ 指摘事項

- ・特になし。

I 教育研究等の質の向上に関する目標

2 研究に関する目標

ア 評価結果

B	概ね計画どおり進んでいる。
---	---------------

【参考】法人による自己評価結果

評価	IV	III	II	I
項目数		4		

IV：年度計画を上回って実施している。 III：年度計画を順調に実施している。

II：年度計画を十分には実施していない。 I：年度計画を大幅に下回っている又は実施していない。

イ 法人の主な取組状況

- ・大学から教員に配分する研究費のうち、重点研究の採択に当たっては、分野横断的な研究や地域の課題解決に資する研究を評価する仕組みを構築した（採択された10件中7件が分野横断的な研究であった。）。【15】
- ・教育学部において、児童教育学研究会の立ち上げに当たり、教員で構成する「今後の教育学部を考える集い」で検討を重ね、児童教育学シンポジウムの開催を企画した（新型コロナウイルス感染症の影響により2022年度（令和4年度）に開催延期）。【16】
- ・都市経営学部においては、2021年度（令和3年度）末で定年退職する教員2人による最後の講演会の機会を都市経営学研究会として設定し、実施した。【16】
- ・外部資金の積極的な活用を行うため、情報発信の強化（教員の研究シーズ集及び研究者情報管理システムのリニューアルに向けた検討、研究紀要の配付など）や異業種交流の促進（福山商工会議所主催のビジネス交流フェアにおけるPR）の取組を行った。また、外部資金の受入れに係る手続きの流れや契約書のひな形等のホームページ掲載、入手した公募情報の全教員に対する情報提供を行った。【18】
- ・科研費の獲得実績に応じて各学部長が柔軟に運用できるインセンティブ制度を構築した。また、経験豊富な教員による科研費獲得に向けた研修会や申請書の点検等を行った。【17】

※年度計画指標（実績数値／数値目標）

- ・科研費申請率（63％／80％）

ウ 特筆すべき事項

- ・重点研究の採択に当たり、分野横断的研究を評価する仕組みを構築したことは評価できる。

エ 指摘事項

- ・科研費の申請・獲得に向けて、一層取り組まれない。

※なお、児童教育学研究会及び都市経営学研究会に関して、各研究会の位置付けや役割を明らかにし、立ち上げ・活動の推進にも取り組まれない。

I 教育研究等の質の向上に関する目標

3 学生の確保及び支援に関する目標

(1) 学生の確保

ア 評価結果

A	計画が順調に進んでいる。
---	--------------

【参考】法人による自己評価結果

評価	IV	III	II	I
項目数		3		

IV：年度計画を上回って実施している。 III：年度計画を順調に実施している。

II：年度計画を十分には実施していない。 I：年度計画を大幅に下回っている又は実施していない。

イ 法人の主な取組状況

- ・学部新生へのアンケート調査や学内関係者への広報活動の現状調査を行い、その結果等から、在学生による母校ガイダンスでの大学紹介の実施や大学案内を補完する受験生向けリーフレットの制作等を決定した。また、オンラインによるリアルタイム型Webオープンキャンパスを実施するとともに、ホームページ内にオンデマンド型Webオープンキャンパスのページを開設した。【19】
- ・教育学部及び教育学研究科に関して、学部生に修士論文発表会への参加を呼び掛け、中間発表会に2人、最終発表会には6人の学部生が参加した。【20】

- ・都市経営学部及び都市経営学研究科に関して、研究科入試説明会において大学院生と進学希望者による交流機会を設けるとともに、修士論文最終発表会に2人の学部生等が参加した。【20】

※年度計画指標（実績数値／数値目標）

- ・研究交流会開催回数（4回／2回）
- ・社会人の大学院進学への推進について、教育学研究科において、大学院1年生を対象とした学習ニーズに関するヒアリングを実施し、2022年度（令和4年度）以降のリーフレット改訂に反映していくことを確認した。また、都市経営学研究科において、大学院2年生にヒアリングを実施し、授業科目等に関する意見を把握した。【21】

ウ 特筆すべき事項

- ・特になし。

エ 指摘事項

- ・社会人ニーズ調査の本格的実施などにより、大学院進学への推進に一層取り組まれない。

※なお、学部生と大学院生の教育研究交流などについて、一層効果的に取り組まれない。

I 教育研究等の質の向上に関する目標

3 学生の確保及び支援に関する目標

(2) 学生への支援

ア 評価結果

A	計画が順調に進んでいる。
---	--------------

【参考】法人による自己評価結果

評価	IV	III	II	I
項目数	1	5		

IV：年度計画を上回って実施している。 III：年度計画を順調に実施している。

II：年度計画を十分には実施していない。 I：年度計画を大幅に下回っている又は実施していない。

イ 法人の主な取組状況

- ・心とからだのサポートセンターへの都市経営学部教員の配置，障害学生支援室の支援員の増員，心の相談室への専任教員1名の新たな配置により，支援体制を強化した。また，修学に係る配慮実施要領を策定し，履修指導担当教員を含め，各学部が中心になって支援する体制を構築した。【22】
- ・外国人留学生の履修相談体制の検討に当たり，学生・教員を対象としたアンケート調査を実施し，国際化推進会議での議論も踏まえ，外国人留学生支援を含む今後の国際化の取組方針の検討を開始した。【24】
- ・障がいのある学生への支援に関する理解や対応力向上のため，オンデマンド研修会を実施した。【23】

※年度計画指標（実績数値／数値目標）

- ・研修会等の実施回数（2回／2回）
- ・参加率（57％／全職員の50％）

- ・附属図書館のサービス等の改善や利用実態等の把握のためのアンケート調査の実施に向けて，調査の方向性の整理や調査票の精査等を目的に，学生へのインタビュー調査を実施し，調査票を作成した。【25】

※年度計画指標（実績数値／数値目標）

- ・学生の来館回数／年（15回／30回）…コロナ禍による閉館の影響あり。

- ・新入生の学習相談について，学生にオフィスアワーや履修指導担当教員を周知し，活用を促した。【26】
- ・在学生の学習相談について，教育学部においては，教育学部学生委員会等で課題共有し，対応した。また，都市経営学部においては，都市経営学部教務委員会の委員，履修指導担当教員等の関係者によるケース会議で課題共有し，対応した。【26】
- ・キャリアデザインセンター運営委員会において，2023年度（令和5年度）からの運用を目指し，就職支援に特化した専門システムの導入を決定した。【27】

ウ 特筆すべき事項

- ・心とからだのサポートセンター，心の相談室等について，学生の支援体制を強化したことは評価できる。

エ 指摘事項

- ・特になし。

I 教育研究等の質の向上に関する目標

4 社会貢献に関する目標

ア 評価結果

A	計画が順調に進んでいる。
---	--------------

【参考】法人による自己評価結果

評価	IV	III	II	I
項目数		8		

IV：年度計画を上回って実施している。 III：年度計画を順調に実施している。

II：年度計画を十分には実施していない。 I：年度計画を大幅に下回っている又は実施していない。

イ 法人の主な取組状況

- ・地域に根差した研究活動の推進に向け、外部資金の積極的な活用を行うため、情報発信の強化（教員の研究シーズ集及び研究者情報管理システムのリニューアルに向けた検討、研究紀要の配付など）や異業種交流の促進（福山商工会議所主催のビジネス交流フェアにおけるPR）につながる取組を行った。【28】
- 【再掲】
- ・重点研究の採択に当たっては、分野横断的な研究や地域の課題解決に資する研究を評価する仕組みを構築した（採択された10件中6件が地域の課題解決に資する研究であった。）。【28】【再掲】
- ・地域連携・地域貢献活動を推進するためのプラットフォームづくりの検討に着手し、大学改革・将来像ワーキンググループにおいて、地域連携の現状共有を行い、新たな複合施設の整備を見据えつつ、今後議論を本格化させていくことを確認した。【29】
- ・事務局選抜メンバーによるグループワークを行い、福山市立大学における地域連携を推進するためのプラットフォームのあり方を検討した。【29】
- ・福山シティフットボールクラブと包括連携協定を締結し、アプリや同クラブのトレーニングウェアデザインの制作など、学生や教職員一体で連携した取組を行った。【30】
- ・教員の講師派遣として、出前授業の実施、地域での講演会・研修会への派遣、行政の附属機関委員への就任等を行った。【32】

※年度計画指標（実績数値／数値目標）

- ・出前授業実施回数等（210件／160件）

- ・諸学校と連携した事業として、福山市立福山高校，広島県立松永高校及び岡山県立笠岡高校の3校で教員が授業等を行う地域探求活動等を実施した。【33】
- ・多文化共生に関するワークショップを4講座開講し，地域における多文化共生ネットワークのハブとして，国籍に関係なく多様な人々が出会い，つながる場を提供した。【31】
- ・社会人向けプログラムの提供や公開講座の充実のため，社会人の学び直し等に関するニーズ調査を実施した。【34】
- ・福山市を外国人に優しいまちにするための様々な課題を考えることを目的とした，多文化共生をテーマとする生涯学習講座を開催した。また，公開講座として，外部講師を招いた基調講演などを開催した。【35】

※年度計画指標（実績数値／数値目標）

生涯学習講座開催講座数（4講座／3講座）

ウ 特筆すべき事項

- ・重点研究の採択に当たり，地域の課題解決に資する研究を評価する仕組みを構築したことは評価できる。
- ・地域連携を推進するためのプラットフォームのあり方の検討に関して，グループワークを行うなど議論が活発化していることは評価できる。
- ・地域密着型クラブ（福山シティフットボールクラブ）との協働・連携は，地域に根差した公立大学としての取組の観点から評価できる。

エ 指摘事項

- ・特になし。

I 教育研究等の質の向上に関する目標

5 国際交流に関する目標

ア 評価結果

A	計画が順調に進んでいる。
---	--------------

【参考】法人による自己評価結果

評価	IV	III	II	I
項目数		3		

IV：年度計画を上回って実施している。 III：年度計画を順調に実施している。

II：年度計画を十分には実施していない。 I：年度計画を大幅に下回っている又は実施していない。

イ 法人の主な取組状況

- ・学生・教員を対象としたアンケート調査を実施することで課題を把握し、今後の国際化の取組方針の検討を開始した。【36】【再掲】
- ・国際交流協定校であるハワイ大学マウイ校とオンライン交流セミナーを開催した。【37】

ウ 特筆すべき事項

- ・特になし。

エ 指摘事項

- ・特になし。

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 大学ガバナンスの構築に関する目標

ア 評価結果

A	計画が順調に進んでいる。
---	--------------

【参考】法人による自己評価結果

評価	IV	III	II	I
項目数	1	2		

IV：年度計画を上回って実施している。 III：年度計画を順調に実施している。

II：年度計画を十分には実施していない。 I：年度計画を大幅に下回っている又は実施していない。

イ 法人の主な取組状況

- ・法人と大学の組織間連携の強化のため、重要会議の日程一覧を作成し、課題等の管理・共有を行うとともに、伝達すべき情報は理事長・学長から各学部長へ速やかな情報伝達を行った。【39】
 - ※年度計画指標（実績数値／数値目標）
 - ・役員協議会の開催回数（13回／24回）
 - ・部局長会議の開催回数（20回／24回）
- ・内部統制システムについて、他大学の手法や事例の調査を行った。また、認証評価機関による評価の受審や研究活動・研究費に関する不正防止等の既存の取組の位置付けの確認、想定されるリスクの洗い出しを行った。【40】
- ・法人内の課題の洗い出しや今後のあり方を議論する場として、大学改革・将来像ワーキンググループを立ち上げ、同ワーキンググループにおける検討状況等については、全学教職員集会などを通じて、全教職員に情報共有を行った。【41】

ウ 特筆すべき事項

- ・2022年（令和4年）の内部統制システムの整備に向けて取組を進められていることは評価できる。
- ・大学改革や将来像など、法人の総体的な議論を行うためのワーキンググループを立ち上げ、今後の法人運営の改善・効率化につなげていることは評価できる。

エ 指摘事項

- ・特になし。

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標

2 業務運営の改善と効率化に関する目標

(1) 機動的・効率的な運営体制の構築

ア 評価結果

A	計画が順調に進んでいる。
---	--------------

【参考】法人による自己評価結果

評価	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
項目数	1	2		

Ⅳ：年度計画を上回って実施している。 Ⅲ：年度計画を順調に実施している。

Ⅱ：年度計画を十分には実施していない。 Ⅰ：年度計画を大幅に下回っている又は実施していない。

イ 法人の主な取組状況

- ・重要会議の日程一覧を作成し、課題等の管理・共有を行った。【43】【再掲】
- ・大学改革や将来像を議論するための場として、大学改革・将来像ワーキンググループを立ち上げ、同ワーキンググループにおける検討状況等については、全学教職員集会などを通じて、全教職員に情報共有を行った。【44】【再掲】

ウ 特筆すべき事項

- ・大学改革や将来像など、法人の総体的な議論を行うためのワーキンググループを立ち上げ、今後の法人運営の改善・効率化につなげていることは評価できる。
【再掲】

エ 指摘事項

- ・特になし。

※ただし、早期に教員の補充が必要と考えられるため、応募しやすい手法を整備するなど、必要な人材の確保に取り組まれない。

Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

2 業務運営の改善と効率化に関する目標

(2) 業務運営の高度化

ア 評価結果

A	計画が順調に進んでいる。
---	--------------

【参考】法人による自己評価結果

評価	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
項目数	1	2		

Ⅳ：年度計画を上回って実施している。 Ⅲ：年度計画を順調に実施している。

Ⅱ：年度計画を十分には実施していない。 Ⅰ：年度計画を大幅に下回っている又は実施していない。

イ 法人の主な取組状況

- ・法人化に伴う新たな事務等を踏まえ、職員の技能向上のため、公立大学協会や福山市等が主催する研修会に参加するとともに、会計研修等の内部研修会を実施した。【45】

※年度計画指標（実績数値／数値目標）

- ・外部研修会等への参加者数（延べ 260 人／各課 1 人）
- ・内部研修会の実施回数（5 回／2 回）
- ・事務局選抜メンバーによるグループワークを行い、職員対象の職場研修において検討結果を共有した。【45】
- ・事務局の派遣職員の配置状況とプロパー職員の採用状況について、全公立大学に対して照会を行い、プロパー職員の配置に関する分析を行った。また、他大学への視察や、福山市の外郭団体に対するプロパー職員採用状況についての聴取を行い、照会結果の分析や視察、聴取内容を踏まえ、人事異動計画を策定した。【47】
- ・財務会計、規程管理、人事給与等の事務のマニュアル化や様式化に取り組むとともに、事務の効率化の検討のため、他大学への視察を行った。【48】
- ・受験生の利便性向上や事務の効率化のため、2022 年度（令和 4 年度）の運用開始に向けてインターネット出願システムの構築を行った。【48】

ウ 特筆すべき事項

- ・職員の企画立案能力向上や大学改革の意識醸成に向けたグループワークの実施などに取り組まれていることは評価できる。

エ 指摘事項

- ・特になし。

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標

2 業務運営の改善と効率化に関する目標

(3) 「地域に開かれた大学」としての業務運営

ア 評価結果

A	計画が順調に進んでいる。
---	--------------

【参考】法人による自己評価結果

評価	IV	III	II	I
項目数		2		

IV：年度計画を上回って実施している。 III：年度計画を順調に実施している。

II：年度計画を十分には実施していない。 I：年度計画を大幅に下回っている又は実施していない。

イ 法人の主な取組状況

- ・ホームページについて、事務局各課に担当者を配置し、所管するページに限らず日常的に確認し、気がつきがあれば担当部署等に伝える仕組みを設け、運用した。【49】
- ・地域連携・地域貢献活動を推進するためのプラットフォームづくりの検討に着手し、大学改革・将来像ワーキンググループにおいて、地域連携の現状を共有し、新たな複合施設の整備を見据えつつ、今後議論を本格化させていくことを確認した。【50】【再掲】

ウ 特筆すべき事項

- ・特になし。

エ 指摘事項

- ・特になし。

Ⅲ 自己点検及び評価並びに情報の提供に関する目標

1 自己点検及び評価に関する目標

ア 評価結果

A	計画が順調に進んでいる。
---	--------------

【参考】法人による自己評価結果

評価	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
項目数		3		

Ⅳ：年度計画を上回って実施している。 Ⅲ：年度計画を順調に実施している。

Ⅱ：年度計画を十分には実施していない。 Ⅰ：年度計画を大幅に下回っている又は実施していない。

イ 法人の主な取組状況

- ・自己点検評価委員会を6回開催し、教員活動調査を実施するとともに、自己評価書を作成した。【51】
- ・中期計画・年度計画の進捗管理を行うため、進捗管理会議を立ち上げ、四半期ごとに進捗状況の情報共有や議論を行った。また、進捗管理シートを作成し、進捗状況が芳しくない取組の原因説明や対応策の提案等の働きかけを行った。【52】

※年度計画指標（実績数値／数値目標）

- ・進捗管理会議の実施回数（3回／6回）
- ・認証評価に向けて、学長の下に教職員で構成する「全学的な内部質保証のための特命チーム」を設け、申請書類の作成やデータ収集、大学教育質保証・評価センターに申請書類等の事前相談による記載内容の充実に取り組んだ。【53】

ウ 特筆すべき事項

- ・学長の下に「全学的な内部質保証のための特命チーム」を組織し、学長のリーダーシップのもと、認証評価に向けて取り組んでいることは評価できる。

エ 指摘事項

- ・特になし。

Ⅲ 自己点検及び評価並びに情報の提供に関する目標

2 情報の提供に関する目標

ア 評価結果

A	計画が順調に進んでいる。
---	--------------

【参考】法人による自己評価結果

評価	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
項目数		1		

Ⅳ：年度計画を上回って実施している。 Ⅲ：年度計画を順調に実施している。

Ⅱ：年度計画を十分には実施していない。 Ⅰ：年度計画を大幅に下回っている又は実施していない。

イ 法人の主な取組状況

- ・情報発信に関する技能習得等のため、福山市が主催するSNS研修に参加するとともに、Facebook, Twitter, LINE, YouTubeに加え、新たにInstagramを開設し、SNSによる情報発信を強化した。【55】

※年度計画指標（実績数値／数値目標）

- ・研修会等への参加者数（延べ9人／各課1人）

ウ 特筆すべき事項

- ・特になし。

エ 指摘事項

- ・特になし。

IV 財務内容の改善に関する目標

1 自己収入の確保に関する目標

ア 評価結果

A	計画が順調に進んでいる。
---	--------------

【参考】法人による自己評価結果

評価	IV	III	II	I
項目数	1	3		

IV：年度計画を上回って実施している。 III：年度計画を順調に実施している。

II：年度計画を十分には実施していない。 I：年度計画を大幅に下回っている又は実施していない。

イ 法人の主な取組状況

- ・科研費の獲得実績に応じて各学部長が柔軟に運用できるインセンティブ制度を構築した。【56】【再掲】
- ・科研費申請率向上のため、経験豊富な教員による科研費獲得に向けた研修会や申請書の点検等を行った。【57】【再掲】
- ・外部資金の受入に係る手続きの流れや契約書のひな形等のホームページ掲載、入手した公募情報の全教員に対する情報提供を行った。【57】【再掲】
- ・外部資金の積極的な活用を行うため、情報発信の強化（教員の研究シーズ集及び研究者情報管理システムのリニューアルに向けた検討、研究紀要の配付など）や異業種交流の促進（福山商工会議所主催のビジネス交流フェアにおけるPR）につながる取組を行った。【58】【再掲】
- ・教員免許状更新講習をオンデマンド形式で実施し、コロナ禍で活動の制約を受ける中においても、講習手数料による独自財源の確保に努めた。また、講座内容の充実を前提に公開講座の有料化の可能性について検討を開始した。【60】

ウ 特筆すべき事項

- ・科研費の獲得実績に応じて各学部長が柔軟に運用できるインセンティブ制度を構築・運用していることは評価できる。
- ・公開講座の有料化を検討するなど、法人化を契機として独自財源の確保に向けた議論を活発化させたことは評価できる。

エ 指摘事項

- ・特になし。

IV 財務内容の改善に関する目標

2 経費の効率的な執行に関する目標

ア 評価結果

—	— 【注】
---	-------

【注】当該年度の年度計画に、取組が設定されていないため。

イ 法人の主な取組状況

- ・特になし。

ウ 特筆すべき事項

- ・特になし。

エ 指摘事項

- ・特になし。

V その他業務運営に関する重要目標

1 施設・設備の整備及び活用に関する目標

ア 評価結果

A	計画が順調に進んでいる。
---	--------------

【参考】法人による自己評価結果

評価	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
項目数		4		

Ⅳ：年度計画を上回って実施している。 Ⅲ：年度計画を順調に実施している。

Ⅱ：年度計画を十分には実施していない。 Ⅰ：年度計画を大幅に下回っている又は実施していない。

イ 法人の主な取組状況

- ・更新の必要性、耐用年数、概算額、リース契約への変更可能性等を調査し、更新費用の平準化も踏まえた設備の更新計画を策定した。【63】
- ・週1回の定期的な巡視を行うとともに、施設・設備の修繕や更新の優先順位付けを行った。【64】

※年度計画指標（実績数値／数値目標）

- ・巡視回数（48回／12回）
- ・図書の収蔵配置計画の検討に当たり、図書の収集・除却に関する方針や手続きの策定に着手した。また、市民等からの図書の受入れ方法を周知するため、対象図書や手続きの流れをホームページで公表した。【65】
- ・施設の有効活用を推進するため、貸出可能範囲を拡大するとともに、一般向けの貸出方法をホームページで情報発信した。【66】

ウ 特筆すべき事項

- ・大学施設の貸出範囲の拡大や情報発信により、一層の活用に取り組んでいることは評価できる。

エ 指摘事項

- ・特になし。

V その他業務運営に関する重要目標

2 安心・安全な教育研究環境の確保に関する目標

ア 評価結果

A	計画が順調に進んでいる。
---	--------------

【参考】法人による自己評価結果

評価	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
項目数		5		

Ⅳ：年度計画を上回って実施している。 Ⅲ：年度計画を順調に実施している。

Ⅱ：年度計画を十分には実施していない。 Ⅰ：年度計画を大幅に下回っている又は実施していない。

イ 法人の主な取組状況

- ・火災の発生や不審者の侵入を想定した教職員対象の危機管理研修会を実施した。

【67】

※年度計画指標（実績数値／数値目標）

- ・研修会の実施回数（2回／2回）
- ・教育機関で発生した事件・事故を踏まえながら、今後の想定訓練の内容点検と体系化を行った。【68】
- ・情報セキュリティについて、法人独自の対策を確立するため、情報セキュリティポリシーを策定した。【69】
- ・ハラスメントに対する知識の習得や相談体制強化のため、ロールプレイングを中心とした内部研修会や、LGBTQへの理解促進のため、外部講師による研修会を実施した。【70】

※年度計画指標（実績数値／数値目標）

- ・研修会の実施回数（2回／2回）
- ・参加率（①100%，②52％／全職員の60％）
- ・産業医が業務を効率的かつ効果的に実施できるよう、産業医と衛生管理者の役割分担等を定めた産業医制度に係る取扱いを策定した。【71】

※年度計画指標（実績数値／数値目標）

- ・巡視回数（産業医：7回，衛生管理者50回／12回）

ウ 特筆すべき事項

- ・特になし。

エ 指摘事項

- ・特になし。